

B12b 光赤外線大学間連携による観測教育ネットワーク OISTER

黒田大介, 関口和寛 (国立天文台), 渡辺誠 (北海道大学), 大朝由美子 (埼玉大学), 諸隈智貴 (東京大学), 斉藤嘉彦 (東京工業大学), 村田勝寛 (名古屋大学), 野上大作 (京都大学), 秋田谷洋 (広島大学), 永山貴宏 (鹿児島大学), ほか光・赤外線天文学大学間連携観測チーム

「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築」事業では、国内外に中小口径望遠鏡をもつ北海道大学、埼玉大学、東京工業大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、兵庫県立大学、広島大学、鹿児島大学および国立天文台が連携した観測教育ネットワーク OISTER (Optical and Infrared Synergetic Telescopes for Education and Research) を構築し運用している。中小口径望遠鏡でこそ可能な時間軸に焦点を当て、突発天体に対して初期からの即時およびモニター観測、可視から中間赤外まで多波長・複数モードで同時観測、1サイトでは実現できない長時間の連続観測を共同して行うことにより、大学での教育と研究を促進する狙いがある。

OISTER では、High-z ガンマ線バーストの検出を第一優先ターゲットに据え、超新星、AGN、激変星、X線連星といった突発天体として知られる天体をサイエンスタargetとしてしている。これまでに 25 天体の観測を実施し、初期成果が出始めただけでなく、OISTER を通して人的交流が活性化され、新たな教育研究基盤の絆が生まれ研究教育成果をもたらしている。

この3年間の間は、情報共有の wiki や ML の整備、プロポーザル制の導入、オンサイト解析の実施体制の構築、規約制定、ガンマ線バースト用即時アラートシステム構築など、この連携観測ネットワークを円滑に運用するための体制を整えることに重点をおいてきた。本講演では、主に OISTER の運用や体制について述べる。OISTER の一環として、環境整備、解析パイプライン、教育プロジェクト、装置開発などの講演も参照していただきたい。